４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.600
2024年の活動を開始しました、間伐指導をしていただきました

【定例活動報告】小手澤の森

2024年最初の定例活動として小手澤の森で薪割りを行いました。
朝はあいにくの雨スタートでしたが、午前中はかどやさんの2階で勉強会を開催し、昼食後に天候が回復したのを見計らって午後からは小手澤の森の東屋へ移動し丸太を10本程度薪割りしました。
緑のダム北相模の活動で取得した木材は製材後に大半は小金井市の学芸大学内にある加工場所へと送られておりますが、心材部分の板などは中学生たちの手によってさまざまな加工がされて小金井市や学芸大学などの看板やスノコ、棚、ベンチ等として使用されているのは過去のニュースレターなどでも紹介されていたかと思います。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

一方、辺材などの端材はどう利用されているかというと、同じく学芸大学敷地内で私もボランティアとして参加しているいけとおがわプレーパーク(冒険遊び場)では当会のキンドリングクラッカーを使用して年少の子供たちにも薪割りなどを体験してもらって、焚き火遊び等に活用されています。

また、中学生たちの活動場所にある薪ストーブの燃料にもなっています。今回の活動で得た薪も乾燥させた後に学芸大学へ運びます。プレーパークでは、木材が相模湖の森から来ていることを利用者の保護者の方やお手伝いに来てくださる学生さん等にも案内させていただいています。森の木材が様々な形で活用されることで、森の魅力を広めるきっかけになり、興味を持った方が森の方にも訪れてくれるなど、活動の広がりにつながれば幸いです。

湯元　啓之（本会、会員）

【定例活動報告】知足の森

1月第3の森は、午前は雨が降っていたため、かどやというところの上の階でそれぞれの自己紹介や、している活動の発表をしました。その後、ペットボトルでスズメバチのトラップをつくりました。午後は東屋のところへ行き、薪割りをしました。最初の方はいくら叩いてもびくともせず、10数回ほど叩いてやっと割ることが出来ていたけれど、薪を割るときは、ハンマーを振り下ろしているときに、身体を使って勢いを加速させるといい、とアドバイスを貰いました。そのアドバイス通りに、ハンマーを振り下ろしている最中、脚や腰をタイミング良く下げて叩くと、数回叩いて薪を割れることができ、慣れてきた頃には1回で割れたこともあったので、成長を感じてすごく嬉しかったです。薪割りというあまり慣れていない動きをしていたり、初めての森だったのもあったりして、翌日は筋肉痛がひどかったけれど、とても楽しい1日だったので、また森に行きたいなと思いました。

辻本　紗弥花　（GTE LAB 中学１年女子）

【活動報告】臨時活動：サトウ草木さんの間伐講習

今日は本業の林業家の方々に指導していただきながら間伐をした。作業の手順や道具の使い方、実際に切る時に意識することなど一つ一つ確認しながら進めていった。私は間伐するのが久しぶりで、木を倒したい方向に向かって受け口を作ることに結構手こずってしまった。そういうときに、林業家の方々から切るときの体の向きや力の入れ方などを教えていただいて、最終的にはちゃんと倒すことができた。木が倒れた後、木のそばに行って年輪を見てみると、やはり木の成長スピードが大きかったのに段々と成長していないことがわかった。これからも一本一本が生きやすくなるように間伐を続けていきたいと思った。

松本　七凪（GTE LAB 中学３年女子）

小金井市貫井北町公民館で自主講座を２本実施（前半）

今回行った自主講座は「森のガラポンビンゴ」です。楽しく森について知ってもらうということを目標にこの企画を立てました。

公民館で行う講座では学校とは違い私たちについても森についても知らない子たちに向かって一から説明していきます。そのためには飽きさせないような工夫やわかりやすい説明の仕方が必要です。そんなところにやりがいを感じました。また、最初は緊張していた子達もだんだん打ち解けてきて最後に「楽しかった！」と言ってくれたのがとても嬉しかったです。

準備をしていく段階でも、また講座当日でもうまくいかないことや予想外のことはたくさんありました。また、それ以外にもどんなに慣れていることだって時には失敗してしまうこともあるし、全てが完璧に進むということの方が珍しいと思います。この自主講座を通して私は、失敗を恐れるのではなくその失敗が起きた時にどううまく立ち回れるかということを大切にして行きたいなと思いました。

熊谷　碧（GTE LAB 中学２年女子）

桜井尚武の森のコラム

「ブナ(*Fagus crenata*)その3 ブナ林での発見 」

図1　ブナの樹皮模様

20061124　玉原高原沼田

図2　ブナ幹

20070211　武尊山スキー場沼田

図3　ブナ幹の根元にみられる凹部

20070211　武尊スキー場沼田

図4　ブナとツルウメモドキ

2011022　玉原高原沼田

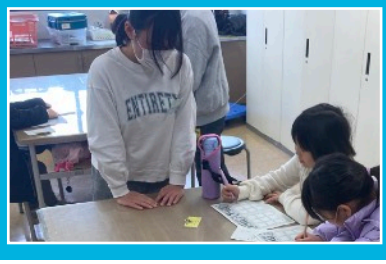
ブナ林は日本の冷温帯に普通な樹種ですが、特に雪国に多くあります。ブナの木肌は割れ目や目立つ皮目等はなく明るい灰色で滑らかです。この樹皮には地衣類や蘚苔類が付着して様々な模様を呈しています（図1）。林の中を歩いてブナの樹皮を注意深く見ると、この模様が幹の下部で薄いことに気が付く人がいるのではないでしょうか。図１のブナも幹の上部には大きな黒い斑点が目立っていますが下部にはそのような斑点が顕著ではありません。多雪地で見たブナでその理由が解ります。積もった雪が沈下するときに締まった雪が樹皮表面を削るので付着物が取れてしまうのです（図2）。このことからこの地域の積雪量がどの程度なのかのおおよそが解ります。

積雪期のブナ林では樹木の周りの雪が融けて窪みがあるのが見られます（図3）。樹木の周りに雪が解けてできる凹部のあるのはブナに限らず、他の樹木でも同様にみられます。これは陽光が樹木に当たってその電動熱により幹に接している雪が融ける結果ですが、地面からの放射熱が樹体を通じて通じて放射されることも影響しています。これらが総合されて森林の中には熱が滞留して寒い冬の気候緩和に樹木が一役買っていると考えられます。樹皮を触ってみる金属やコンクリート、石などに触れた時より冷たくないことは誰もが知っていることでしょう。これは樹木の熱伝導度が低いことによるもので、樹木が得た熱が急速には放出されずに蓄えられていることを意味します。林木を取り去って林地を裸出させるとその一帯は寒暖の差が大きくなり気候緩和機能が損なわれることになります。

ブナの幹に蔓植物が巻き付いているのを見つけました（図4）。写真の蔓はツルウメモドキ(*Celastrus orbiculatus*)です。巻き付いて幹を締め付けています。強く締め付けられて光合成で作られた養分の下降を止めてしまった結果この部分に下降すべき養分の滞留が起きたのでしょう。これでブナが枯れることはなく、やがてはこの蔓を巻き込んで樹体の中に収めてしまうだろうと思いますが、ブナの材に傷害が残るのは間違いありません。このような現象はブナばかりでなく、どんな樹種にも起こりうることで、これ以外にもヤマブドウやシラクチヅルの巻き付きを観察しました。林業経営上は育てている樹木にこのような蔓による障害が起きるのは好ましいことでないので、蔓切りは大事な作業です。

桜井　尚武（本会、会員）

小金井市貫井北町公民館で自主講座を２本実施（後半）



今日は小金井公民館で森の縁日でした。「間伐シューティング」と「パズモリ」と「森に光を届けよう」の三つのアトラクションを作りました。間伐シューティングでは伐採するべき木と残す木を見極めて撃ってもらうというところがポイントで、パズモリは森のはたらきが書かれたパズルのピースを釣って森のはたらきを学んでもらうというのがポイントでした。また、森に光を届けようは穴に森のサイクルが書いてあるので玉を入れることで森のサイクルを学べるところがポイントでした。それぞれギリギリに完成したのにもかかわらず多くの小学生を楽しませることができてよかったです。一番の反省点としては最終的に間に合ったけど、やっぱり一つ一つ大まかにできただけで満足しちゃっていたかなと思うのでこれからはちゃんとけががないようにとか公民館のスタッフさんに迷惑が掛からないようにとか自分たちが作る以前にかかわる人たちのことも考えてやることができたらいいなと思いました。もっともっと効率的にもっともっとうまくできたらいいなと思います！

保立希乃心（GTE LAB 中学２年女子）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia